

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひなぎく )

事業所番号	0691500060		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホームリバーヒル長井 館町		
所在地	長井市館町南9-72-10		
自己評価作成日	平成29年 3月 29日	開設年月日	平成26年 6月 2日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あふれる商業施設が立ち並び地区に当事業所があります。地の利を活かし、利用者と一緒に近所のスーパーへ買い物に出かけたり、近くの土手等へ散歩に行く機会を持ち、地域の皆さんと関わりが持てるよう配慮しています。又、隣接する地域密着型特養や母体の老人保健施設へ出向き交流を図ったりもしています。ホーム内からは草木や菜園を眺めることが出来、その成長を見ながら利用者との会話を楽しみ、収穫した野菜を調理に活かすことで季節の移ろいを感じ取って頂いています。さらに、テレビ体操や足踏み体操を日課に取り入れれたり、介護予防センターへ出かけマシントレーニングを行うことで健康維持に努め、利用者一人ひとりが活き活きとした生活を送ることが出来るよう支援しています。法人内5棟のグループホーム間でスキルアップのため合同で研修会を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 29年 4月 25日	評価結果決定日	平成 29年 5月 12日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

\*1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の思いや考えをまとめた理念を事業所内に掲示している。各個人のネーム裏に挟んで常に携帯し理念を意識したケアを心掛けている。また毎月のスタッフ会議においてケース検討会を開催し理念に添ったケアが行われているかを再確認している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方を招いて年末の餅つき会を開催した。さいとう焼きには天候不良であった為、利用者の参加はできなかったが代表として職員が参加させて頂いた。また、地元の神社の清掃や地域の防災訓練に職員が参加、傾聴ボランティアの受け入れ等通して地域との交流を図る事が出来ている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム運営推進会議にて利用者との関わり方、毎日の生活の様子をお伝えし、認知症に対する理解を深めて頂き、支援の在り方を地域の方にも広めて頂けるように働き掛けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域の代表、家族代表を委員構成とし、2ヶ月に1度開催をしている。事業所の報告と共にグループホーム運営に対する意見、要望、アドバイスを頂いている。また地域代表や家族代表、事務局から市への質問や意見等を頂く等、双方向的な会議を行っている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへ出向している法人職員を介したり、運営推進会議の中で市職員からの介護保険の動向や他事業所の情報等を教えて頂いている。また開設後指定申請を受けている市町村担当者へ相談する等、都度確認しながら運営へと繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員更衣室内に身体拘束の具体例を示した資料を掲示し、常に一人ひとりが理解し意識付け出来るように啓蒙している。利用者に対しては、声かけの仕方や関わり方を工夫したり、外出の際には付き添い支援を行い安全に過ごす事が出来るように配慮をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する外部研修を受講した職員が事業所会議の中で伝達研修を実施した。参加できなかった職員には資料を配布し、職員全員が理解を深められるよう工夫している。又、日頃の利用者の介護にあたり、気づいたこと等があればお互いに声かけができるよう働きかけてもいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修は今年度実施する機会がなかった。次年度には、是非学習する機会を設け、職員が知識習得をする事でスキルアップが図れるように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、必ず契約書、重要事項説明書の説明を家族に行い署名と捺印を頂いている。また、変更があった際には事前にお電話をした上で家族とゆっくりとお話ができる場を設け説明を行っている。ご家族からの質問などにも十分に納得して頂ける返答が出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表者に参加して頂き、質問、要望、意見等を自由に提案できるよう配慮している。又、ホーム内に意見箱を設置し言葉にできない思いを投書して頂けるように準備している。今年度は法人全体でアンケート調査を行い貴重なご意見を頂戴した。今後に向けて課題を整理していく方針である。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議・グループ会議を行い意見や提案に対して話し合いを行っている。参加出来ない職員からは事前に意見を聞き取り代弁している。話し合った内容を確認しあい、運営に反映できるように努めている。代表者には、エリア部長を通して職員の意見や提案を伝達してもらっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所属長と個別での面談を行い、又、随時ケアに対しての相談や悩みなどを聞き、職員の状況を確認している。職員の努力や実績などを把握し各自が向上心を持って働くことが出来るように努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修会・山形県社会福祉協議会主催研修会等へ参加している。スタッフ会議で研修報告をし職員間で確認を行っている。グループホーム独自でも研修会を開催しスキルアップに繋げている。今年度は新人職員はいなかったが、エルダー制を取り入れ人材育成に努めている。			
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会置賜ブロック会に参加し、他事業者との交流を交えながら交換実習や会議への参加を行っている。法人内5棟のグループホームでもお互いにレベルアップに繋がるよう定期的に学習会を行っている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の希望を受け、自宅や施設へ訪問し、本人の困っていることや要望を把握している。本人の意思を大切に考え不安が少しでも取り除ける様に耳を傾けている。不安解消の1つとしてホーム見学を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から相談を受ける際はご家族の思いを大切に、自由にお話出来るよう環境の設定に配慮している。家族が困っていることや、要望などに耳を傾け今後の方向性について一緒に考え良い関係を作れるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で必要とされる支援は何かを考え、本人・家族が最も良い支援を受けることが出来るよう必要なサービスの提供に努めている。今後は居宅ケアマネージャー等在宅生活中に関わりを持っていた方からも、本人・家族の思いを確認できるような関係性を築いていきたいと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族や本人などからの事前情報を元にグループホームとしての日常生活と一緒に過ごしている。利用者から畑仕事を教わったり、調理の仕方を教わったりしながら共に過ごしている。利用者の表情や行動、気遣いの言葉に感動したり元気を頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には常に状況を伝え、必要時には、電話での連絡を行い、情報交換を行っている。来訪された際は居室やフロアでゆっくりと過ごすことが出来るよう配慮している。利用者の立場となって家族と一緒に考えながらお互いの理解に努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の訪問や、時々自宅や行きつけの美容室へ外出する機会や、馴染みの方と会話する機会を設け関係が継続していけるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で一緒にお茶を飲んだり一緒に作業を行ったりすることで、関係性が円滑になるよう見守りや声かけを行っている。また、1人の時間も大切に出来るよう環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へお見舞いに行き利用者との関係性が継続出来るよう努めている。今後の方向性など主治医との面談の際は家族と一緒に参加し利用者や家族の思いを尊重しながら相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用し、全員でC-1-2シートを記入し沢山の視点から利用者の思いが汲み取れるよう努めている。また、日々の表情や言動を職員全員で情報共有しながら利用者の思いに添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅や病院(施設)へ訪問した際に、お話を伺ったり、事前にセンター方式シートを家族へ渡し記入して頂き、今までの生活歴や習慣、生活スタイル等を職員全員で情報を共有出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを重視し、尊重するよう努めている。利用者の心身の状態に合わせて関わりが出来るよう工夫し、作業などを行いながら能力の発揮に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、全職員でC-1-2シートを記入し利用者の希望や家族の思いを事前に確認しプランへ組み入れている。定期的なモニタリングを行い、現状にあったプランなのか検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や利用者の行動等を毎日記録に残し情報の共有が出来ている。アセスメントの際は言動や行動から利用者の思いを汲み取りケアプランに反映させている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の協力を得て一緒に餅つきを行った。委員と食事を共にしながら会話する中で、地域の様子を伺ったり昔話で話が弾むなど、楽しい時間を過ごすことが出来た。また、近隣のスーパーへの買い物や傾聴ボランティアの受け入れなど、利用者の皆さんが楽しんで過ごす事が出来るよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は連絡表を用いて日頃の様子や身体状況を報告し、かかりつけ医からは診察結果や指示事項等を記入して頂いている。基本的には家族に同行受診をして頂いているが、不可能な時には、職員が代行している。利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年10月より医療連携看護師の配置により、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。緊急時や大きな状態変化がみられる場合、かかりつけ医と連絡を取りながら救急医療へと連携を図っている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要な情報を医療機関へ提供している。入院中の利用者に関する情報については、家族から連絡を頂いたり、直接医療機関へ訪問し、利用者や医療関係者から情報を得ている。また、医療機関で行われる退院前カンファレンスにも参加し、退院後相互に不安のないように話し合いを持っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年10月より医療連携看護師の配置により、看取りを行える体制ができた。現在の所、対象者はおられないが、今後、利用者・家族の希望など確認し、そのような状態になった際にはスムーズに対応出来るよう、研修会の実施や指針の確認を行っている。入居時には重度化の指針を家族と確認し、署名を頂いている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は応急手当普及員より、物品を用いて緊急時の対応の仕方を学び、事業所独自でも訓練を実施し、マニュアルの見直しを行っている。また、今年度新人職員はいなかったが、法人内の救急救命士による学習会を新人研修に取り入れ実践に活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し消防署の指導のもと火災訓練を行っている。運営推進委員会の中で火災避難訓練を行ったり事業所独自でも訓練を行い、水や食料品等の備蓄も行っている。地域防災訓練があり、今年度はエリア内他事業所職員と共に参加した。参加出来なかった職員へは伝達を行った。水害訓練も行った。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に人生の先輩であることを頭に起き利用者の立場になって尊厳や誇りに傷つけないような声かけや対応を行っている。職員間で常に話し合い、行動に至るまでの利用者の思いや安心して生活できる声かけの仕方などを考えながら情報を共有し人格を尊重した関わりを心掛けている。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者主体の生活で利用者の思いや願いを汲み取り、表現できるように傾聴し、利用者が自分で決めた事が出来る関係性を築き自己決定を尊重した関わりを心掛けている。			
37		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが利用者の生活リズムや思い、また、その日の過ごし方の希望や体調に配慮しながら個別性のある支援を行っている。買い物や外出の希望があればホームの様子を見ながら付き添ったり、裁縫を行いたい方や読書をした方にはゆったりとした気分のできる環境作り心がけ、その人らしい生活を送ることが出来るよう支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室があれば、家族と出掛けたり、月に1度理容店が来られ利用者の希望で散髪・顔そりを行っている。ひげ剃りなど不十分の方にはお手伝いをし清潔保持に努めている。また、洗面所には一人ひとりの棚があり、女性の方でお化粧の習慣のある方へは化粧道具など持参して頂きいつでも身だしなみを整える事が出来るよう配慮している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性利用者だけで調理をするのではなく、男性利用者の方にも参加して頂き、皆で楽しめる環境を作っている。片付けも仕事を分担し一人ひとりが役割を持てるようにしている。利用者1人ひとりの嗜好や摂取量に合わせて量・形態に配慮し、苦手なものがあれば代替え品を準備し食事を楽しめるようにしている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保が必要な方には、チェック表を用いて状態観察の把握に努めている。1人ひとりの嗜好や摂取量に合わせ、代替品や食べられる量や形態で提供し、確実に栄養・水分が取れるよう対応している。状態に合わせ、主治医へ相談助言を頂き対応している。		
41		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声がけを行い、義歯洗浄は週2回洗浄剤を使用し行っている。口腔内に問題がある際は家族へ連絡し、必要時歯科受診へつなげている。		
42	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートや記録、申し送りにより排泄パターンやその変化がわかるようにしている。自立しているが失禁が見られる方に対しては自損心を傷つけないような声がけや対応を行っている。介助が必要な方には時間を見て、トイレへ誘導し残存能力を活かした介助を行っている。		
43		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日同じ時間に体操を行い、体を動かすことに心掛けている。また、お茶会や食事の際など水分を多く摂って頂けるよう、急須をテーブルに準備し自由に水分を取ることが出来るよう配慮している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する曜日がその時々で変わると混乱される方もおられるため曜日を予め決めているが、利用者の希望に添って日にちをずらしたり、入浴時の時間を決めている。入浴時は個々の能力に合わせた対応を行いゆっくりと入浴ができるよう環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はカーテンなどで光を遮ったり夜間眠れない方へはお話を伺うなどし、安心して休むことが出来るように対応している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表に基づき服薬時に薬の数を確認し更に間違いの無い様に利用者にも確認していただいている。薬を全員内服後内服忘れ防止の為違う職員にも確認してもらい2重チェックを行っている。薬の内容に変化があった際は記録に残し職員間で情報を共有している。薬を準備する際は職員2名で処方箋を確認しながら行っており、誤薬へと繋がらなよう心掛けている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の経験や得意分野を活かし、畑での野菜づくりや収穫に取り組んだ。また、定期的な買い物の際には利用者も一緒に出掛けた。法人内事業所へ図書を借りに行ったり、友人への面会、作品の展示など出かける機会を多く持ち、気分転換を図っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を伺いその時のフロアの状況を確認し出来る限り希望に添った外出や買い物への付き添いなど支援している。市内や法人内の行事、また、個々への関わりで自宅へ出掛ける等外出の機会へと繋げている。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、希望時職員が付き添って個別で買い物へ出かけ、希望の物を購入している。選んだり購入する際も利用者の意思を尊重しながら希望の品を購入することが出来ている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛ける支援をしている。携帯電話を持っている方で、着信が聞こえていないような時は、さり気なくお伝えし会話が出来るように支援している。また、毎年ご家族・ご友人宛に年賀状を準備し関係性が途切れないよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の温度湿度管理と冬期間は加湿器を居室・フロアーに設置している。日差しが強い時にはレースのカーテンやロールカーテンを下げるなど行い適度な光が差し込むようにしている。居室内のカーテンも利用者に向けてから適度な光が差し込むよう配慮している。食器洗いの際もできるだけ音がでない配慮をし夜間や午睡時にはゆっくり休む事ができるように声の大きさや足音などにも気を配っている。季節の花を飾ったり装飾を利用者と一緒を作り、それを飾り居心地のいい空間となるように工夫している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室スペースに座布団やテーブルをおき、いつでも自由に過ごす事ができるようにしている。キッチン前には昇降テーブルと椅子をおき調理の際には利用者の方と会話をしながら作業や味見をしていただいている。食席の配置は関係性を考慮し居心地よく過ごすことができるよう工夫している。定期的な席替えを行い、利用者間での交流を深め楽しく過して頂けるよう心掛けている。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子など利用者の馴染みの物を持参して頂いている。カレンダーや写真、利用者本人が作成した作品を飾ったりしながら、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除用具は利用者のわかる所におき掃除がし易いようにしている。キッチン前に昇降テーブルをおき、利用者の体型に合わせて作業を行う事が出来るよう高さを調整し、調理や食器拭きを行っている。各居室入り口には名札を明示し、居室ごとカーテンも異なった物を使用することで他利用者の居室とは違うと認識し易い工夫をしている。		